

古文書から読み解く 福石神社の歴史と由緒

教育委員会文化課 高橋 菜月

福石神社とは？



江戸時代、福石神社は公文富士氏の屋敷の鎮守で、「福石子育市大明神」と称した。

毎年7月31日（近年は近い土日、今年は**本日7月25日**）に、通称「ワコゴリサン（輪くぐりさん）」が行われる。

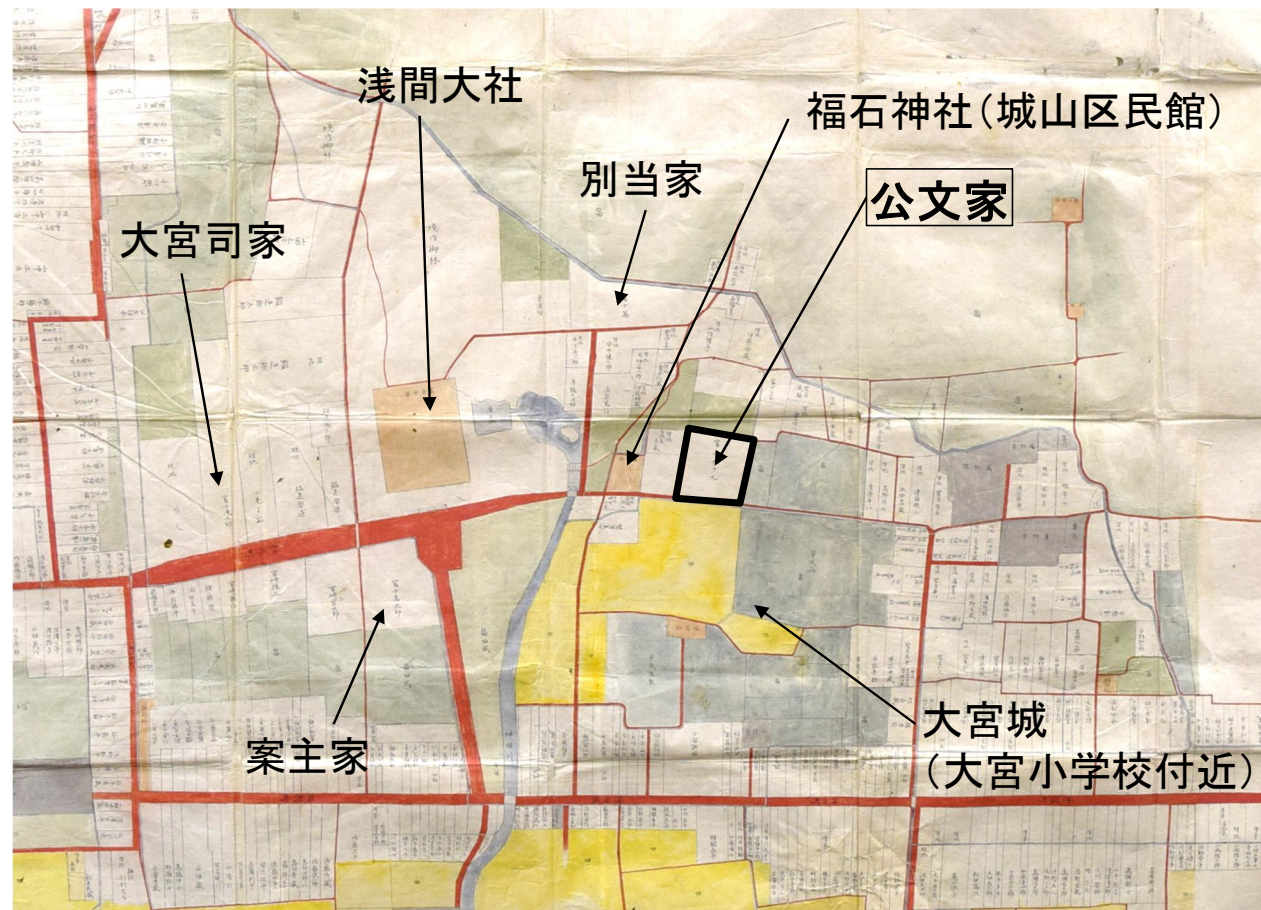


公文富士氏とは？

江戸時代～明治時代初期まで浅間大社は、富士姓を持ち、神職の頂点たる「大宮司」とその下で同じく富士姓を持つ「**公文**」「**案主**」、仏事を司る法体の「別当」を中心に運営される。

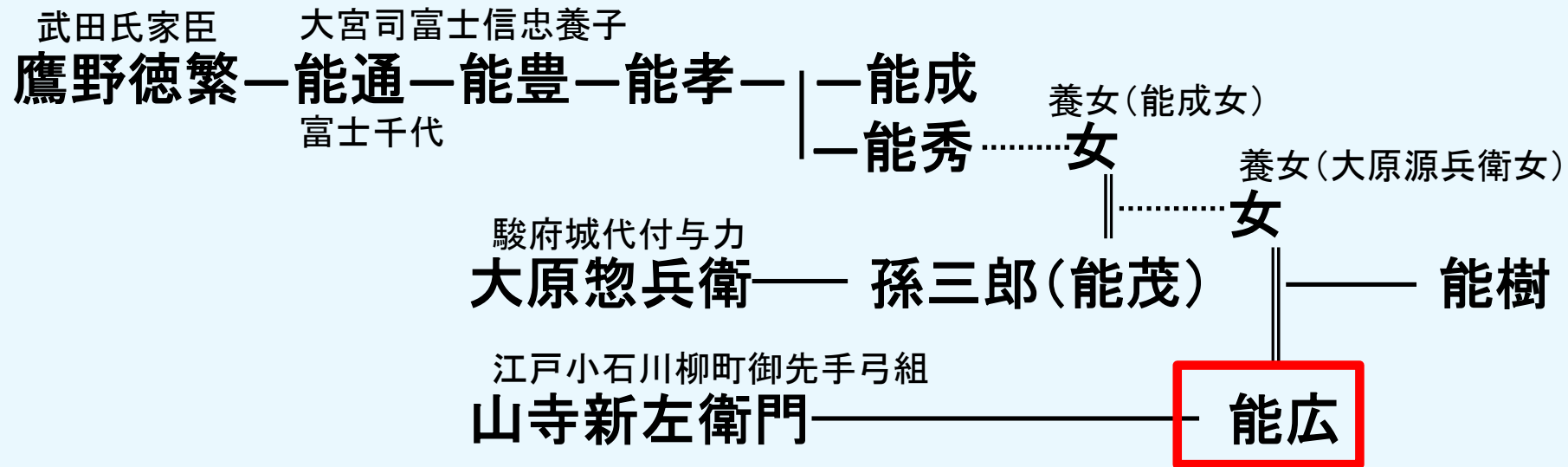
その下には「宮仕」「鍵取」など、神社の雑務や祭祀の補助、社頭の警護などを担う下級の神職がいた。

公文富士家は、天正4年(1576)に公文職を継いだ**富士千代**を祖とする家。
(富士千代の公文職継承の詳細は、前回の講座参照)



静岡県管轄第廿六区 駿州富士郡大宮街戸籍絵図面
(明治時代頃、富士宮市立郷土資料館蔵)

公文富士氏と富士長門



富士能広(富士伊勢守／富士長門)

明和5年(1768)2月23日、能茂の養子となり、翌6年家督相続。

年貢収入の見込めなかった万野原開拓のための用水開発や、勧進・宝物開帳・富くじなどによる社殿の修理費確保に奔走。安永6年(1777)には富士山頂支配をめぐる吉田口との訴訟のため江戸に滞在している。

今回の文書の構成

① 端裏書

折りたたまれた文書の右側の裏側に書かれた文字や内容の要約。

② 標題

文書の内容を端的にあらわしたものの省略されることもある。

③ 作成年

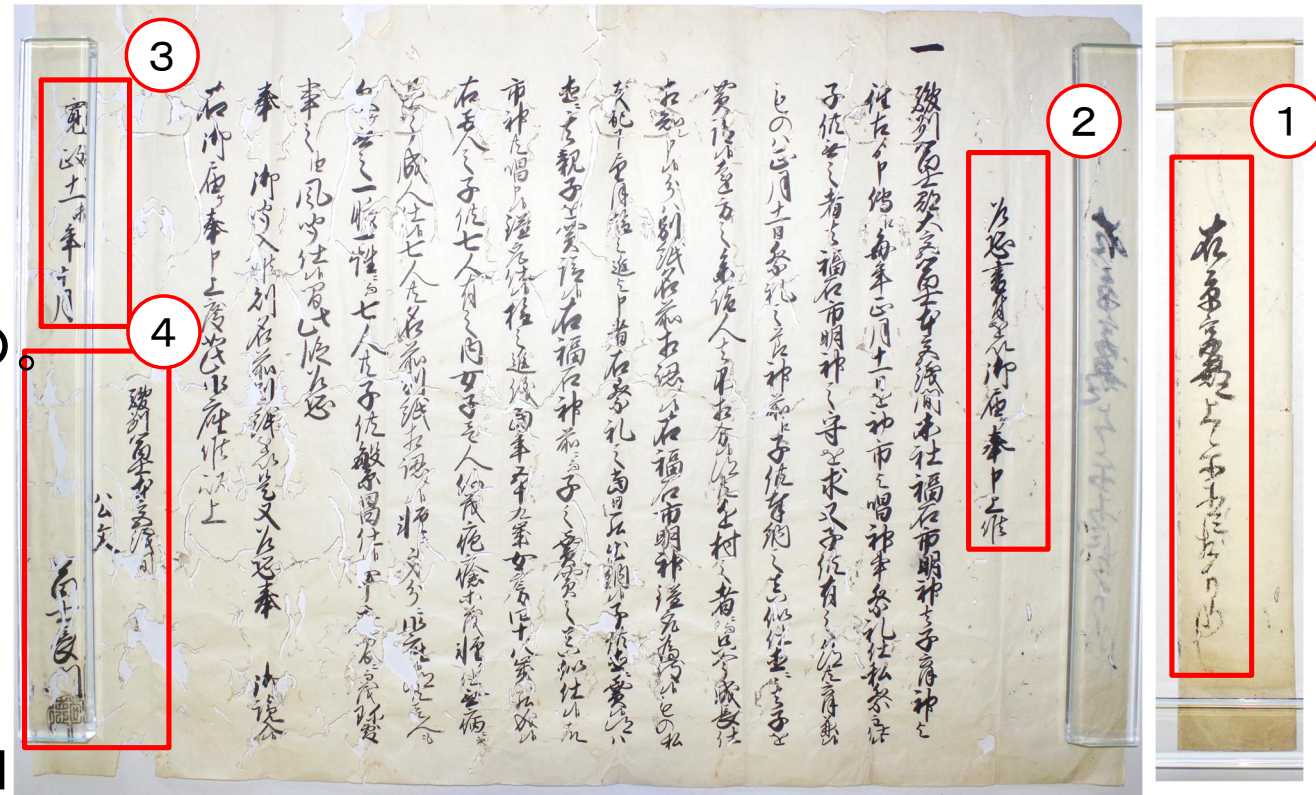
文書が作成された年月日がわかるが、具体的な年が書いていない場合もある。

今回は「寛政十一未年(1799)十月」

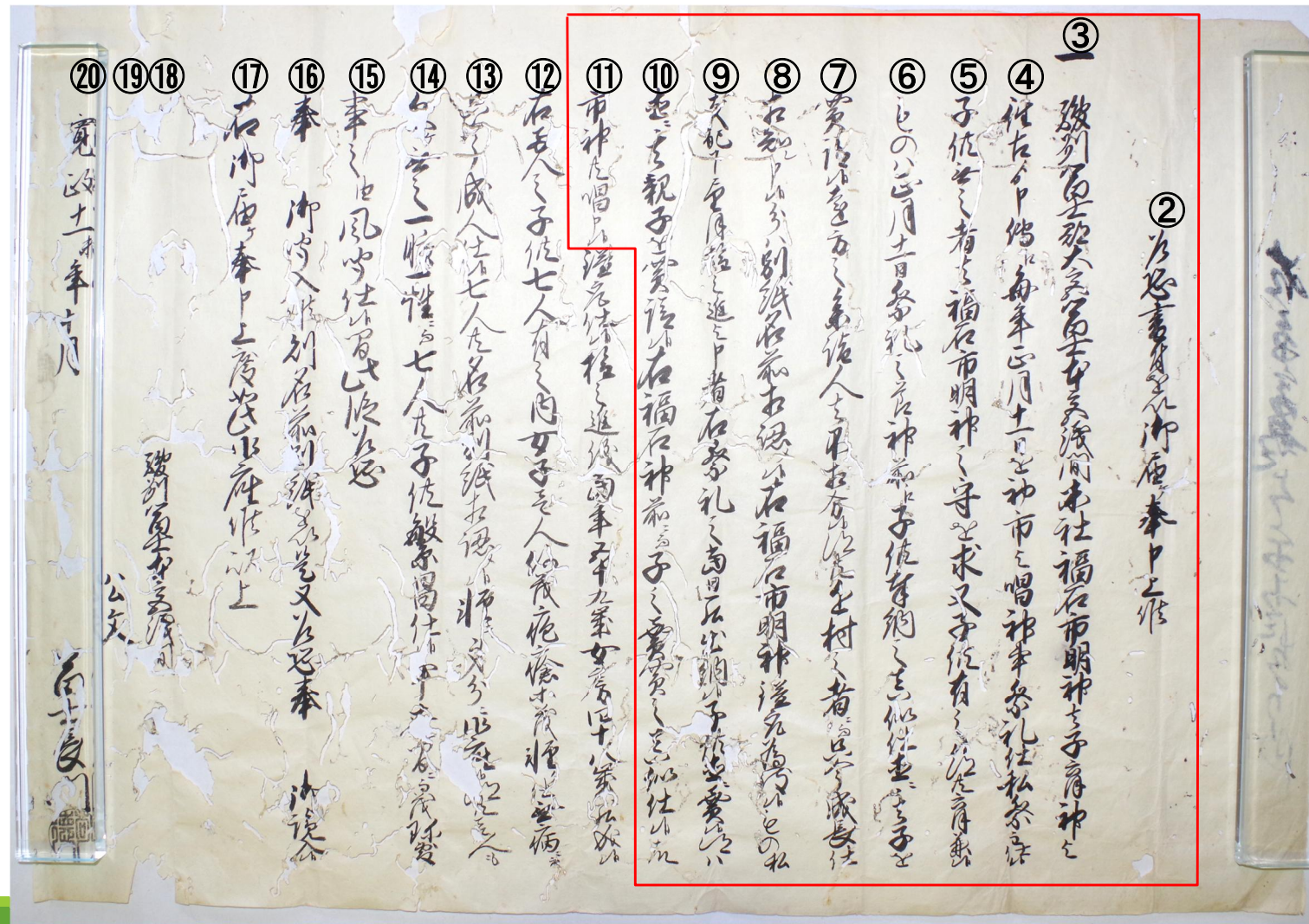
④ 差出

文書の発信者。あるいは発信者の意志を受けて発信した人物。

今回は「駿州富士本宮浅間公文 富士長門(能広)」



まずは読める字をワークシートに入れてみましょう



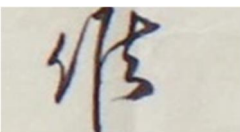
まずは**10分**、
読める字を探
しましょう

②～⑪の途
中まで解説し
ます

配布資料の
次ページ以降
にヒントがあり
ます



くずし字をどう読むか



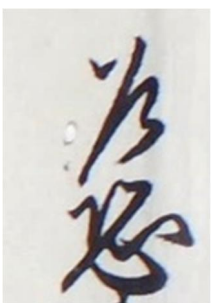
そのまま覚える



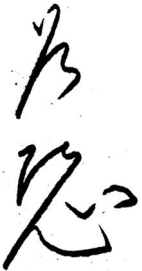
そのまま覚える



そのまま覚える



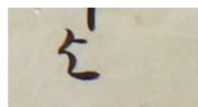
そのまま覚える



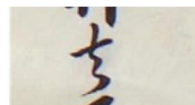
□□書付を以□届ケ□□上□

② 忍書付を以御届奉り上作

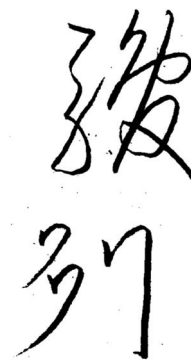
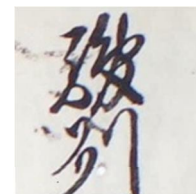
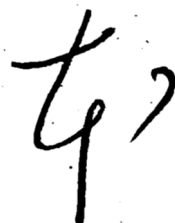
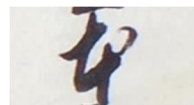
くずし字をどう読むか



そのまま覚える



そのまま覚える



一〇〇富士郡大宮富士〇宮浅間
末社福石市明神〇子育神〇

一〇〇富士郡大宮富士〇宮浅間
末社福石市明神〇子育神〇

くずし字をどう読むか



正

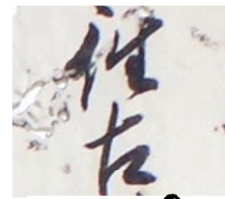


傳

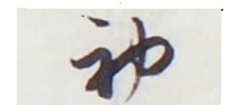


ト

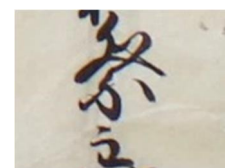
そのまま覚える



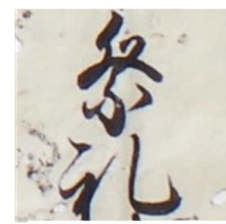
佐



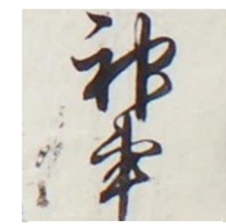
神



祭

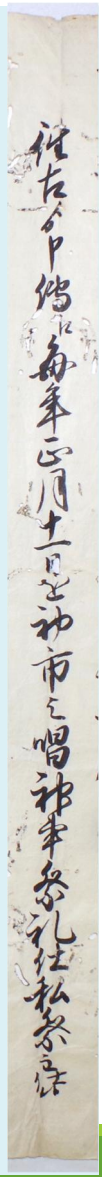


祭

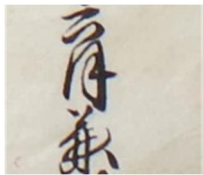


神

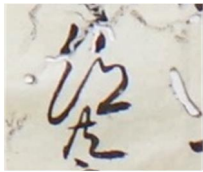
□□□申□□毎年□月十一日を
□市与唱神□□□仕私□□仕候



くずし字をどう読むか



育兼



育兼



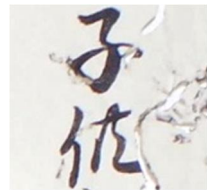
育

そのまま覚える



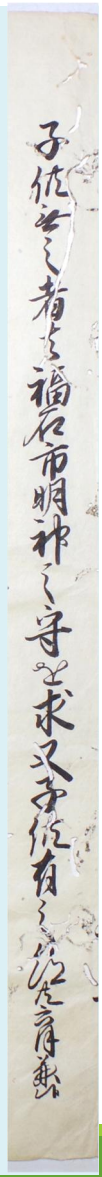
育

そのまま覚える



育

子□□□者者福石明神□守を求
又子□有□候□□育□候



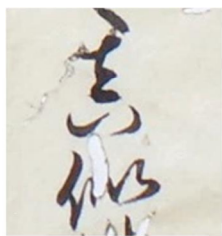
くずし字をどう読むか



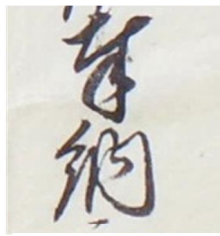
子



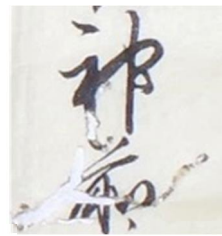
仕



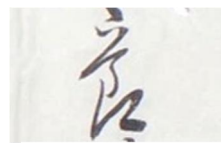
之



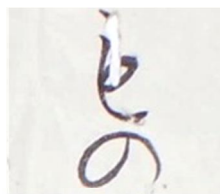
納



神



口



の

□のハ正月十一日祭礼之□神□
江子供□□之□□仕□二□子を

このハ正月十一日祭礼之□神□
江子供□□之□□仕□二□子を

くずし字をどう読むか

そのまま覚える字

者しや
者しや

金村きんむら
金村

不ふおお分ぶん
不ふおお分ぶん

系けい読とく人にん
系けい読とく人にん

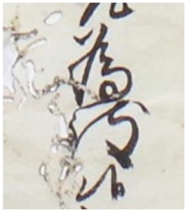
金方きんぽう
金方

賞しょう讀とく
賞しょう讀とく

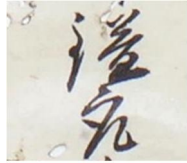
買口候口方之口口人者口口口候
得共口村之者二口只今成長仕

賞讀金方系読人金村者只今成長仕

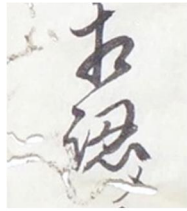
くずし字をどう読むか



高
知
山



名
前



相
候



別
紙

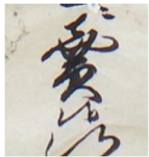


分

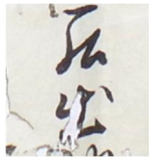
相知シ申候□ハ別□名前相□□候
右福石市明神□□□□候もの私



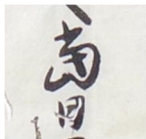
くずし字をどう読むか



交配



取込



高回



正月様之進



交配下

交配下正月様之進と申者右祭礼之高回取込納候子供直二候得ハ

くずし字をどう読むか

市神共唱申候、

市神丸唱以溢名懷極之進後國奉平九策女書臣十八歲九月

直二其親子を買請候右福石神前二
而子之売買之真似仕候□

孝子之愛父母如神前子之愛父母如神



○翻刻

(端裏書)

- ①「右、京宮殿へ上候所直二相下り候」
② 乍恐書付を以御届ヶ奉申上候

③ 一駿州富士郡大宮富士本宮浅間末社福石市明神者、
子育神与

④ 往古方申伝江、毎年正月十一日を初市与唱、神事
祭礼仕、私祭主仕候、

⑤ 子供無之者者福石市明神之守を求、又子供有之候
得共育兼候

⑥ ものハ、正月十一日祭礼之節、神前江子供奉納之真
似仕、直二其子を

⑦ 買請候、遠方之参詣人者不相分候得共、近村之者二
而只今成長仕

⑧ 相知シ申候分ハ、別紙名前相認め候、右福石市明神
鎔取為致候もの、私

⑨ 支配下望月権之進与申者、右祭礼之当日罷出納候
子供直二売候得ハ、

⑩ 直二其親子を買請候、右福石神前二而子之売買之真
似仕候故、

⑪ 市神共唱申候、鎔取仕候、権之進儀当年五十九歳、
女房四十八歳罷成候、

⑫ 右両人の子供七人有之内女子壹人、何も疱瘡等も
軽ク仕無病二而

⑬ 只今成長仕候、七人共名前別紙相認め候、軽キ身分
二御座候得共、壹人も

⑭ 欠ケ無之、一腹一性二而七人共子供繁昌仕候、□□
間二而も珍敷

⑮ 事之由風聞仕候間、此段乍恐

⑯ 奉 御聞入候、則名前別紙を以、是又乍恐奉 御覽
入候、

⑰ 右御届ヶ奉申上度如此御座候以上、

⑱ 駿州富士本宮浅間

公文

⑳ 寛政十一未年十月

富士長門印

○読み下し

(端裏書)

「右、京宮殿へ上げ候所直に相下り候」

恐れ乍ら書付を以て御届け申し上げ奉り候
おそ なが かきつけ も おとど たてまつ そつろう

一駿州富士郡大宮富士本宮浅間末社福石市明
すんしゅうふ じげんおおみや ふくいしいちみょう

神は、子育神と往古より申し伝え、毎年正
こそだてしん おうち

月十一日を初市と唱え、神事祭礼仕り、私
はついち

祭主仕り候、子供これ無き者は福石市明神
の守を求め、又子供これ有り候えども育て

兼ね候ものハ、正月十一日祭礼の節、神前へ
子供奉納の真似仕り、直に其子を買ひ請け
まね しか そのこ

候、遠方の参詣人は相分からず候えども、

近村の者にて只今成長仕り相知し申し候分

は、別紙名前相認め候、右福石市明神鑑取
したた かぎとり

致させ候もの、私支配下望月権之進と申す
ごんのしん

者、右祭礼の当日罷り出で納め候子供直に
まか いで

売候えば、直に其の親子を買ひ請け候、右福

石神前にて子の売買の真似仕り候故、市神
いちがみ

とも唱え申し候、

○読み下し(つづき)

鎔取仕り候権之進儀当年五十九歳、女房四十八歳罷り成り候、右兩人の子供七人これ有るの内女子壹人、何も疱瘡等も軽く仕り無病にて只今成長仕り候、七人共名前別紙相認め候、軽き身分に御座候えども、壹人も欠ケこれ無く、一腹一性にて七人共子供繁昌仕り候、□□間^{〔甲カ〕}にても珍しき事の由風^{ふう}聞仕り候間、此段恐れ乍ら御聞入れ奉り候、則名前別紙を以、是又恐れ乍ら御覧入れ奉り候、右御届け申し上げ奉りたく此の如く御座候以上、

駿州富士本宮浅間

公文^{くもん}

寛政^{かんせい}十一未年十月

富士長門^{ふじながと}印

○現代語訳

（端裏書）

「右の書類を京の宮殿へ差し上げようとしたところ
直に提出するよう言い渡された」

恐れ入りますが、書面にて御届を申し上げます

一駿州富士郡大宮にあります富士本宮浅間末社の福
石市明神は、子育神といにしえより申し伝え、毎年
正月十一日を初市と唱え、神事祭礼をいたし、私は
その祭主をしております。子供が無い者は福石市明
神の守を求め、また子供がいても育て兼ねる者は、
正月十一日祭礼の時に、神前へ子供を奉納する真
似をし、直に奉納した子供を買い受けます。遠方の
参詣人は分かりませんが、近村の者にて現在成長し、
分かっている者は別紙に名前を記載しています。

福石市明神の鎔取をさせている者で、私支配下の望
月権之進という者が、右祭礼の当日に神社へ行き奉
納された子供をそのまま売れば、直接その親が子
を買い受けます。福石市明神の神前で子の売買の真
似をするので、（神社は別名）市神とも申します。

○現代語訳(つづき)

鑑取をしている権之進は当年五十九歳、女房は四十八歳になります。この夫婦の子供は七人おり、そのうち女子は一人です。いずれも疱瘡なども軽く、健康に現在成長しております。七人の名前は別紙に記載しております。低い身分ではございますが、一人も欠けることなく、同じ父母から生まれた七人とも子供がたくさん生まれております。これは□□間(世間一般の意力)にても珍しいことと噂されておりますので、このことを踏まえ恐れ入りますがお聞き入れください。そして名前を別紙にてこれまた恐れ入りますが御覧に入れます。右の御届けを申し上げたく、この通りでございます。以上。

○補足

鑑取 かぎとり 社寺の職制の一つ。厨子ずしの鍵を預かりその開閉をする。(日本国語大辞典)

疱瘡 ほうそう 天然痘てんねんとうの別称。病原体は痘瘡ウイルス。高熱とともに赤い発疹ほっしんが出て、膿疱のうほうとなり、後に瘢痕化はんこんしてあばたになる。種痘しゅとつによる予防率はきわめて高い。(日本国語大辞典)

一腹一性 いっぶくいつしやう 正しくは「一腹一生」カ。同じ父母からうまれた兄弟姉妹。(日本国語大辞典)

福石神社の歴史と由緒

造営棟札(『福石神社史』より)

【表】

天下太平 萬民安穩 息災延命 大工 佐野房蔵
棟梁橘氏左衛門藤原道友

佐野磯七

奉新建立諸願成就祈所 富士公文守和邇部能廣(花押)

木挽 立宿善次

五穀成就 家内安全 子孫繁栄

石屋 新宿久左工門
久兵衛

文化二乙丑年水無月吉辰

【裏】

此福石市大明神と称し奉るは、公文家敷地内の鎮守也、
安永年迄此石上に壹尺貳寸位の小さき祠これ有り、石は
平地にこれ有るを、社領惣人足を以て、此の石をうかし
め、此の地形築き立て、四方に石壇仕立て、地面、内の方
へ、地方もち広げ、安永九年先ず大鳥居を立て、享和二成
年雨屋・拝殿相立て申し候、明和年中より、安永年中□の
出入中、江戸詰め^の出入り中、江戸詰め□より、江戸御
□□□願方留□中、建立及□り入り候、新宮ならびに
拝殿等造作成就也、

福石神社の歴史

安永9/1780 大鳥居建立(右)

天明2/1782

安永の富士山訴訟で中断していた
御免勸化を再開し、浅間大社・福
石子育神社の修理を計画(『刈谷
町庄屋留帳』)

天明8／1786

能広、福石神社の祭主となるべく、
吉田家へ神道裁許状を申請。

寛政11/1799(今回の文書)

光格天皇第六皇子(後の仁孝天
皇)の安産祈願にあたり、富士
能広、朝廷へ福石子育神社の
由緒書を提出。

福石神社の歴史

享和元/1801(右上)

毎月11日の定期市について初めて高札を立てる。また定期市について戦国時代にかかれた六斎市に由緒があるとする。

享和2/1802 雨屋・拝殿建立(棟札)

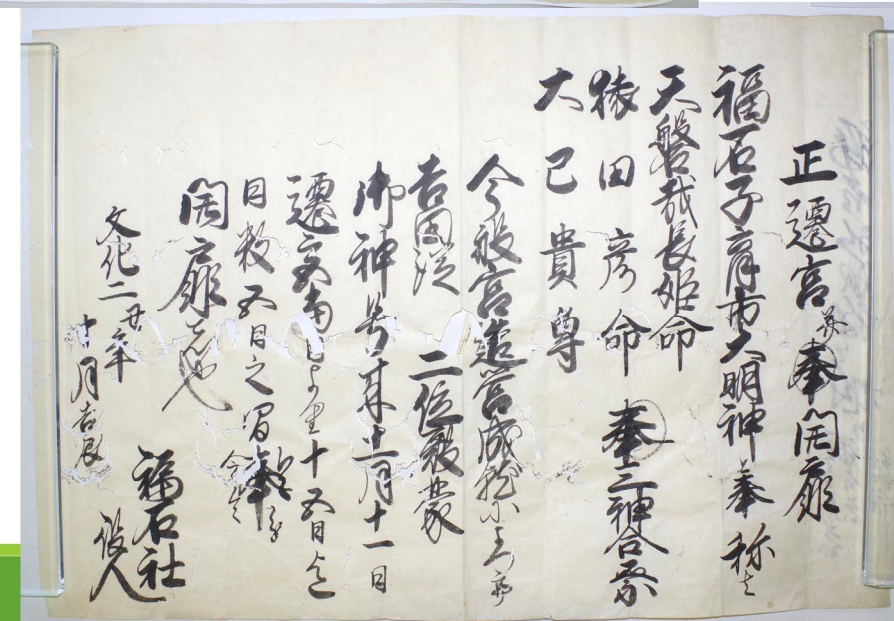
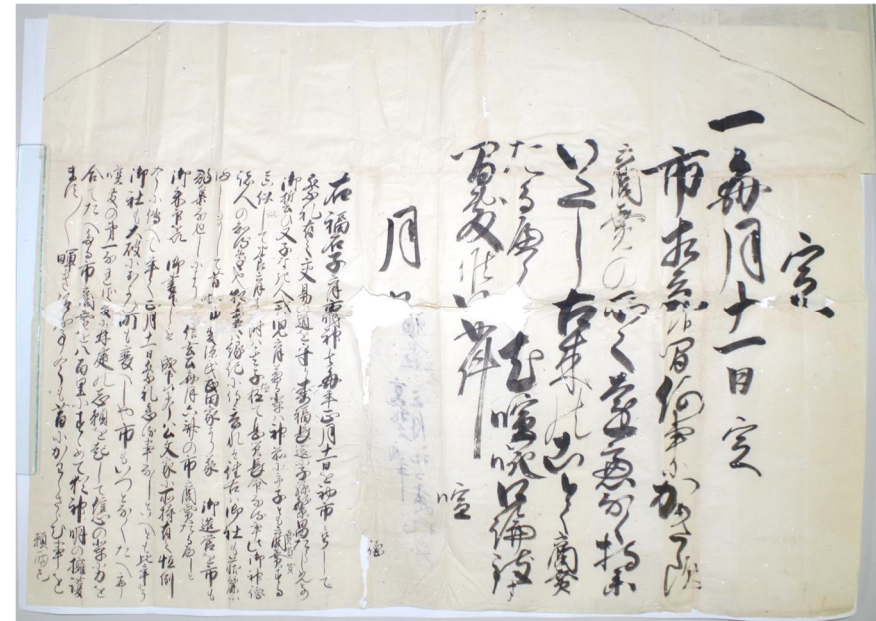
神社再建、再建に際し能広、「大己貴命・猿田彦大神・磐長姫命」を合祀し「福石子育市大明神」と称することとし、吉田家へ神号授与を望む

文化2/1805(右下)

神社が完成し、吉田家当主ト部良連から神号を授与されることになる

11月遷宮、遷宮に伴い御開扉※

※本尊や秘仏を安置する入れ物の扉を開き、参拝者が拝めるようにすること



福石神社の歴史

文化3/1806

吉田家当主卜部良連から「大己貴命・猿田彦大神・磐長姫命」の神号を授与(右上写真)

文化10/1813

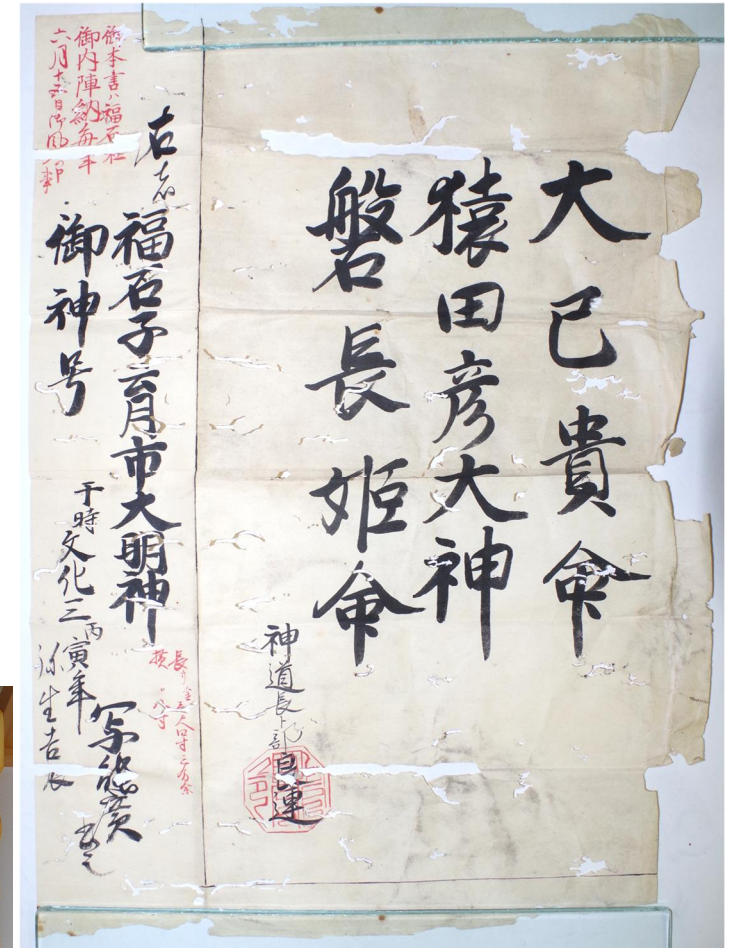
聖護院一品親王盈仁入道から直筆額を下賜される。(右下写真)

文政3/1820

徳川家慶の側室清涼院の
懐妊・男児授かり祈禱

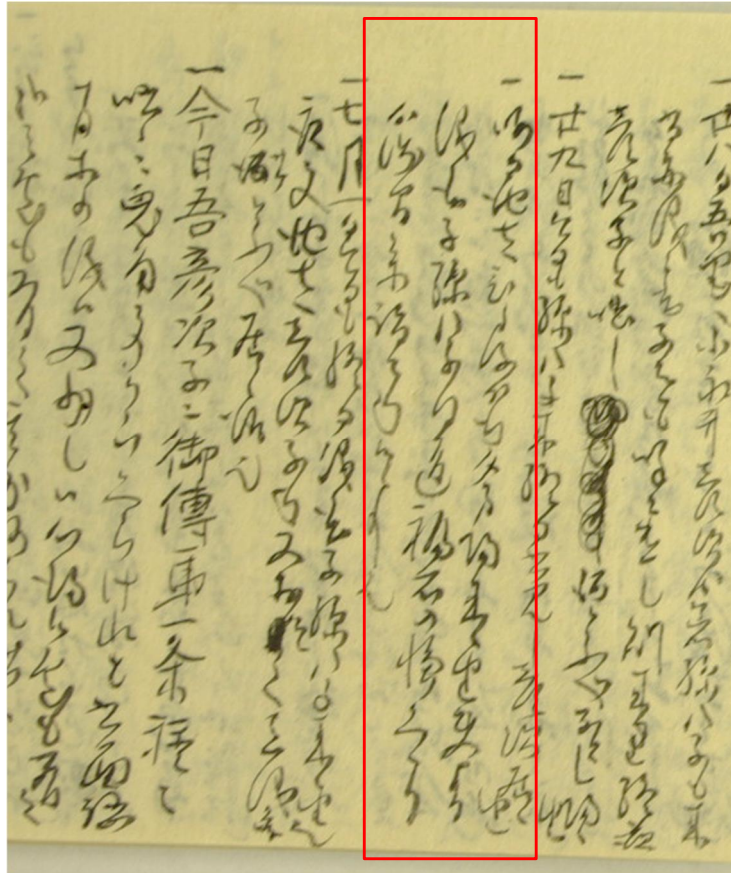
文政6/1823

将軍家へ御札献上願い



古文書にみる福石神社

一(六月)晦日、池七(池谷七郎兵衛)へ
ひる後方行、夕方帰来候由、夫より儀
兵衛子・孫八子同道**福石の輪くゝり**方
浅間参詣二行候よし也

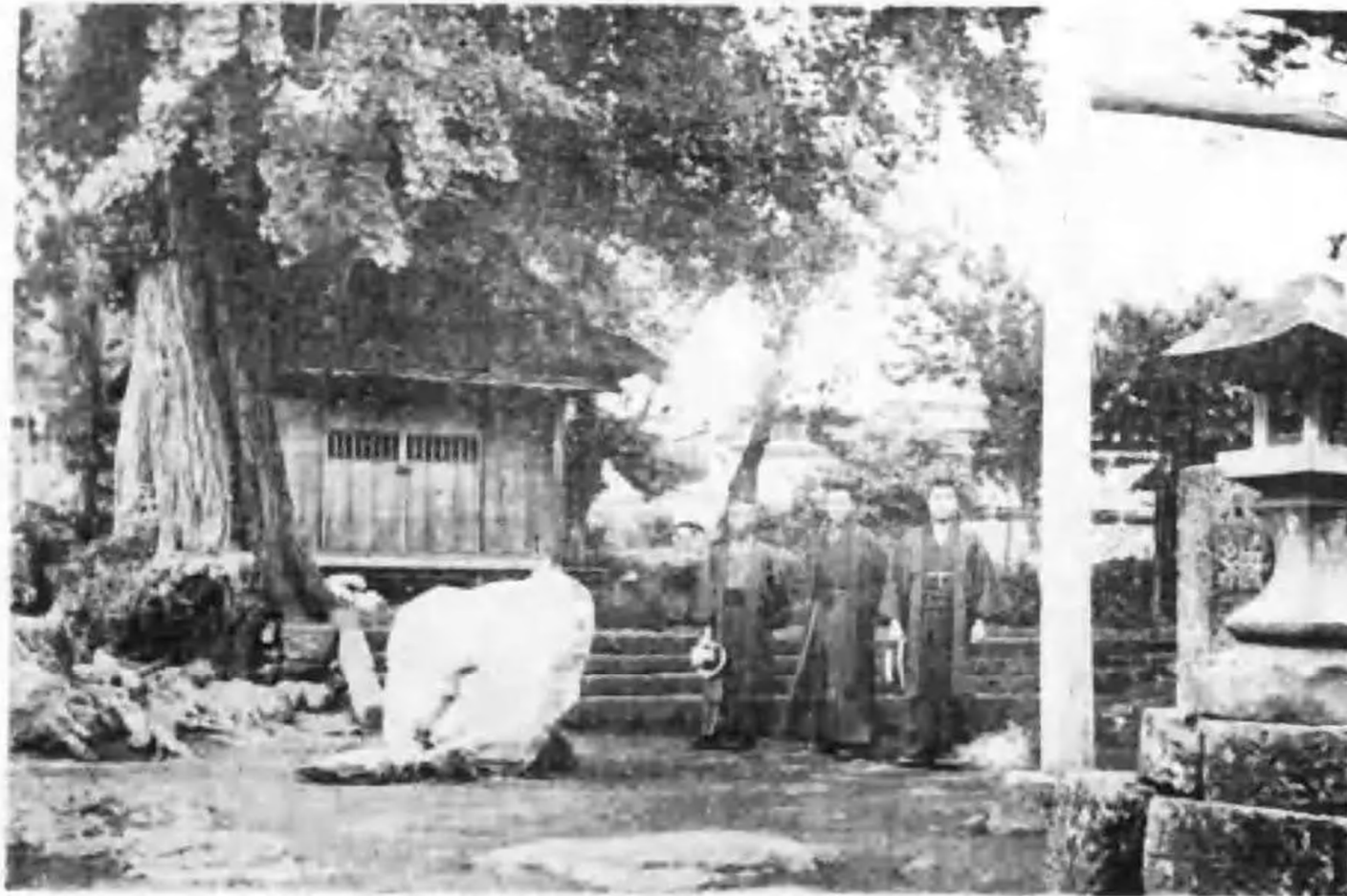


『角田桜岳日記』弘化4年(1847)7月2日条
(富士宮市立郷土資料館蔵)

正月十三日条
今日九ツ時 おのふ出産 女子 初名お
くみ **福石大明神申子**
六月二十九日条
今夜福石大明神祭礼

『袖日記』万延2年(1861)条
(個人蔵)

子育て神の由緒



福石神社(『富士郡神社銘鑑』第1輯、1929)

山中共古^{きつ きよ}『吉居雑話』※

大宮町神田ヨリ北へ行クト**福石**
子育て神社トイフアリ、此社前ニ
扁平ノ石アリ、維新前ハ四十二
ノ歳ニ生レシ子、又ハ生育ヲ案
事ル小児ヲ捨子トシテ此石ノ上
ヘ捨ルコトス、其時旧大宮ノ
公文所ノ若党(現今ツキ米ヲ業
トセリ)、捨子ヲ取り上ケ改テ捨
主ヘ渡スコトヘセリ、カク致セバ
小児丈夫ニ成長スルコト信ゼリ、
此若党ヲ勤メシ人、先年死去セ
シ時ニ会葬者多カリシハ、拾ハ
レシ人々ナリシトゾ

※吉原教会の牧師 山中^{えむ}笑(号共古)が
明治40～45年の吉原での生活で見聞
きしたものをまとめたもの。

子育て神の由緒

子金澤昌三編『福石神社史』
(緑星社出版部、1938)

第四部 一般の崇敬

...当神社では、現氏子総代望月誠一氏の家が古くから代々、「**神の申し子**」の事を奉仕された、家柄であつたと云はれてゐる。

之れには面白い法式がある。**先づ社殿内に嬰子を納めて帰る、其の時、後ろをふり返つて見てはならない、子供の泣き聲を聞いて近所の者が、望月家へ知らせる、望月家では、神酒と供物を献じ成育の祈願をこめて、神前からお授けの子供を受けて帰る、近所の者を立合人として、目出度、御神酒を開いて、御祝の印に扇子一對を添へて実家へ改めて遣はすのである。此の時、子供の通称を変へるものもある、さうした子供は、皆壮健に育つと云はれてゐる。この習慣は久しい間上下を通じて行はれ来たものらしい。**

遠藤秀男『富士宮の道祖神』
(緑星社出版部、1981)

4 赤児をすてた風習と道祖神

...「福石子育神社」という。ここでも昔は赤児すてが行われてきたのである。

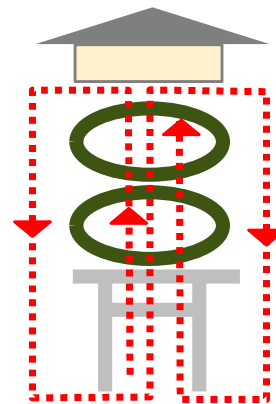
ひろいあげる役目は、近くの望月誠一さん方がひきうけていたといい、昭和41年ごろ私が取材した時に聞いた話だと、**赤児すてをする人は必ずしも厄年だけではなく、流産とか子供の早死になどを体験した子供が丈夫にそだってほしいと願って相談にくることも多かったという。**「その場合、あらかじめ両家で話し合いをしておき、ひろいあげた後でもとの家に“くれてやる”という形をとりました。くれてやる時には、縁起のよい物を添えてやりましたが、カツオブシとかアタリメ(スルメ)、ヤブコウジ(赤い実をつける常緑の小灌木)と白扇を付けたりしたものです。しかし、これも大正時代までのことで、昭和に入ると次第になくなりました。

福石神社の祭礼 ワコゴリサン(輪くぐりさん)



毎年7月31日(近年は近い土日、今年は**本日7月25日**)に行われる。夏越の祓(半年の罪や汚れを除き去るための行事)。

鳥居と社殿の間の参道に茅の輪を2基設置。輪の大きさは、例年は一丈二尺(約3.6m)、閏年には一丈三尺(約3.9m)とし、青竹を芯にして周囲を茅で覆う。(現在は、茅の入手が困難であるため輪の大きさはやや小さくなっている)



茅の輪をくぐれば疫病にかからない、夏病みしないといわれている。福石神社は「くぐり返し」をしない。(通常は茅の輪をくぐるとすぐにもう一度茅の輪をくぐり∞の字形に進む)